

えっちなのはいけないと思います！
というのは、いけないと思うのだ。

ロージナ茶会ちゃんねる 試作零号
白田 秀彰

前フリ

根本的前提 | えっちと暴力は違うよ。

えっちと暴力は、本質的に違うものだ。えっちと暴力を不可分のものだと思い込んでる人はどうしたものだろう。

えっち 愛によって始まり、新しい生命の誕生をもたらす。

暴力 憎みによって始まり、生命を危険にさらし時に奪う。

暴力反対！ 当事者双方の合意と承諾のないえっちは、暴力的なものだから反対！ 相手が嫌がることをするえっちは暴力的なものだから反対！ 当事者が合意していても、「おいおい、そりゃ無理だろ、常考」というえっち表現も反対！ それは危険表現であり、真似して怪我する人が出るから。

根本的前提 II 性関連情報は性そのものではないよ。
日本社会は、商業目的に駆動された「性関連情報」は溢れているけど、**生物として人間同士の交流である「性そのもの」は極めて制約されている** と思っている。

「性そのもの」への社会的規制を緩めることが、問題として糾弾されている「性関連情報」の氾濫を止める本質的前提であることをいいたいわけだ。

二次元に萌えるより、近所のあの子に萌えるほうが、たぶん人間として幸せ なんじゃないだろうか。

「性関連情報」は、産業的に生産するものであり、商品として販売することができる。だから、表面的には禁止されていても、**商業資本主義社会においては、密かに奨励される。**

各種メディアにおける「性的イメージの濫用」

「性関連情報」商品は、「性そのもの」を抑制することによって商品価値を上げる。

「性そのもの」は、人間存在にそのまま組み込まれているもので、売買春を除くと商品として販売されるものではない。現代的な規範では売買春は厳格に禁止されるので、産業化できない。**すなわち、「性そのもの」は商業資本主義社会においては無価値。**

根本的前提 III 家族と結婚は国制の基本だよ。
安定した結婚制度、安定した家族制度は、**財産相続の秩序と結合して、秩序ある社会の基盤**。だから、できればみな、穏やかに愛し合い、ぬくもりのある家庭をもてればいいね。
中上流階級による社会秩序支配の理由。
下流階級が社会の主導勢力になれない理由。

性道徳、性規範が、安定した結婚制度や家族制度に必須の条件であることは事実。大事だぜ！

でもさ、交際が困難になるほど、「性そのもの」への規範が強力になっている一方で、商品化された「性関連情報」が氾濫してるのってどうなの？

根本的前提Ⅳ 動物的なえっちと恋愛は違うよ。

恋愛の構造は、

- a. 自己にあるアニマ/アニムスへの憧れと同一化欲求
- b. 自己にあるアニマ/アニムスを投影できる対象の発見
- c. 対象への自己のアニマ/アニムスの投影
- d. 生身の対象と、自己のアニマ/アニムスとの葛藤・融和
- e. 結果

であるので、抽象的・ギリシア的恋愛(エロス)においては、**対象が生物学的な意味での異性である必然はない。これが「萌え」ではないのか。** すなわち「萌え」と「性愛」は無関係。むしろ、生物学的な意味での肉体的性愛は、動物的な欲望として極めて低く評価されていた。

込み入ってるんで、結論から言えば...

生物としてあたりまえの欲望・行為であり、我々の社会のもっとも基本的な紐帯となる自然な「性そのもの」があまりにも抑制されすぎているのではないか。

いま、問題とされている「いわゆる性の乱れ」と呼ばれるものは、自然な「性そのもの」を抑制しすぎた「歪み」として現れているのではないか。

二次元に萌えている人がワンサカ(? 十万人)いて「キモイ」とか言う人がいるが、**そんなに多くの人が二次元に萌えている(萌えざるえない)社会的背景について考えるべき。**

生物学的にえっちは
繁殖は、生物の根本的な目的。
繁殖可能に成熟した固体は、当然に繁殖活動をする。
多くの場合、繁殖活動を終え子孫を残した固体は死ぬ。

疑問

生物として首尾よく成熟した個体であるならスルことが当然のことであるのに、なんで我々はこんなに大騒ぎするのか？
むしろ、繁殖可能にまで成熟したのにデキない現状、またデキない現状を強化しようとする動きの方が不自然なのでは？

えっちや出産は基本的に危険

- a. 感染症の危険 各種、体内細菌を交換することになる。
- b. 怪我の危険 通常の状態でないので怪我する。
- c. 出産時の危険 胎生は個体への負担を考えると基本的に無謀。自然界での卵の残存率が低い場合のみ有効。

他人の遺伝子を受け入れる。体内に別の生命を寄生させる。鼻の穴からスイカを出すようなハメになる。よくよく考えるとむちゃくちゃな話だ。

やみくもなえっちを抑制すべき理由がここにある。

人間性的にえっちは

食欲・睡眠欲・性欲は人間の三大欲求。

食欲 食べないと死ぬ。

睡眠欲 寝ないと頭がおかしくなって死ぬ、たぶん。

性欲 しなくても死なない。えっちは身体に有益説/有害説
いずれもあり。でも、たぶんずっとガマンさせられると、精神的・身体的に歪みが出るだろうことは容易に想像できる。

法律によって禁止されなくても、ずっと食べてる人、寝てる人がいないことから判断して、何らの規制がなくても、ずっとえっちしている人はいないと思われる。疲れるだろ、普通。

社会的にえっちは

食欲 食事そのものは本人の意識が明確になる以前から「自然」に行われる。社会的規範による統制は比較的弱い

睡眠欲 睡眠そのものは本人の意識が明確になる以前から「自然」に行われる。社会的規範による統制は比較的弱い

性欲 性欲については本人の自我が明確になった後に切実なものとなる。誰しも最初に起きる出来事については何らかの不安を持っている。それゆえ、**社会的・宗教的統制の対象として格好の対象となる。**

例：容認され、祝福される性交繁殖は、社会的に一定の要件を満たし、宗教的な要件や儀式を経由しなければ認められない。

それ以外の性交は厳しく制約される。

要件や儀式を経由していない繁殖行為は非難され、子どもや家族が社会的に排除される。

これによって、社会的権力や宗教的権威が強化される。

えっちを制約する社会的・宗教的理由。

宗教的権威に遵わないと、社会的に許容されるえっちができない、という仕組みができてしまえば、宗教的権威がとてとても強力になることは簡単にわかるよね？

子孫ができること

親は子を身体的成熟まで保護養育する 子は親を支援し一族を形成する。一族の存在、子孫の存在は、安全保障・社会保障であった 当然、「産めよ増やせよ地に満てよ。」

しかし、野放図なえっちや繁殖には問題がある。

- a. 感染症の危険。
- b. えっちに勤しんだ結果、生産が過少になると困る。
- c. 食糧等の制約条件下、過剰に多数の子どもたちの存在は、いずれの子どもも成長に必要な資源を得られない危険がある。高い幼児死亡率
- d. 将来の過剰人口につながる

個人的には自己の子孫繁栄の動機があるにもかかわらず、社会全体としては、子どもの数を調整する必要がある。

えっちを制約する経済学的理由。

えっちを制約する経済学的理由と、社会的・宗教的理由が結合することで次のような状態が発生する。

- a. 食糧等の生活環境を整える能力が高く、社会性もあり、その子孫が社会の有益なメンバーになるだろう、男女のみが生殖を容認されるしくみ。
- b. 有力な一族は、相互に構成員男女を結婚制度で交換し合うことで、社会的な紐帯を強化し、集団を形成し、社会においてさらに有力な地位を獲得する。

小結論

生物学的にも人間性的にも、えっちがダメな理由はない。
社会的・宗教的に、えっちがダメなんじゃなくて、**えっちは統
制されるべき**（社会機構と宗教機構を強化する目的のため）、ということになる。

統制の根拠が正当で必要であれば、統制は望ましい。家族
と結婚の制度は、国制の礎。けど、**統制の根拠が不当で不
要なものであれば、我々の本質的な幸福に対する単なる障
害にすぎないことになる。**

まして、「性そのもの」を抑圧することで、「性関連情報」の産
業を活性化させようなどと企んだり　　してないよね？

まほろ神

「性の抑制」には、保健衛生やら人口調節やら、宗教的・政治的統制やら、そういった目的があったわけだが、現代の日本においては、そうした**目的が忘れられて、「えっちなのはいけないと思います！」**という命題が自己目的化してないか？

ここで、自己目的化し自律化した、「えっちなのはいけないと思います！」と呼びかける観念を**「まほろ神」と呼びたい。**

本題

歴史的にみる

古代ギリシャ・ローマ・ゲルマン世界

好きになったら好きで良いし、えっちしたくなったらえっちしてたように見える。自然の秩序の重視。結婚は身分制度。

「えっちは人間の獣的側面なので、それに捕らわれることはバカっぽくて恥ずかしい」という観念があったみたいだ。

女性が男性よりも「劣っている・不完全だ」という認識があったようなので、「美しく優れた男性が好き」でも別にヘンだとは思われてなかったようだ。

好き = ハアハアでないことに注意。

幸いなことに「美しい男性」というのは人間の典型としての「美しく優れた少年」(14-15 歳)だったようだ。

中世ヨーロッパ世界

公式な道徳はキリスト教道徳だけど、実は誰もちゃんと理解してなかったようだ。公式な結婚制度は身分/相続制度。

中世庶民のキリスト教なんて、現世利益の呪術対象だったみたいだ。土着の旧信仰との融合。

王族 = 乱脈、貴族騎士 = 貴婦人にハアハア(ロマンスの誕生)、聖職者 = いろんな背徳でハアハア、金持ち = 乱脈、庶民 = 古くからの交際と結婚の伝統の中に生きる。

人口のうちかなりの多数は結婚なんかしてない。

恋愛と結婚は無関係な概念だったことに注意。

結婚は財産相続のための制度。

人口のうちかなりの人は、えっちすらせず死んでる。

近世ヨーロッパ世界

キリスト教道徳がようやく一般に浸透してきたけど、**伝統的な恋愛と結婚の様式は維持されていた。**

ルネサンスを経たので、キリスト教の教義から離れた表現や考え方も容認されるようになってきた。

上層階級では、上品な性道徳が表面を覆っていたけど、**実は不倫・乱倫花盛り。**

華やかな都市では、**売買春花盛り。**

相変わらず庶民は適当にくっついては離れてる。

できちゃった子どもを簡単に捨てたりあげたり。

庶民が性的にテキトーであるがゆえ、上層階級では「秩序ある上品さ」が階級のシンボルとして重視される。

アメリカ清教徒世界

清教徒によって作られ、庶民水準までキリスト教道徳が浸透しているアメリカは異常。「アメリカの欧州に対する道徳的優位」。結婚制度が自明のものとして受容される。

頽廃した大都市がそもそも形成されてない。農村部では、いろいろとあったけど、大体隠蔽されていた。

奴隷やネイティブアメリカンに対していろいろあったけど、あまり気にされてなかった。だって「人間じゃないんだもの」。

結婚前のえっちが厳しく禁じられていた一方で、婚前交際に関する暗黙のルールが形成されていて、青少年はそのルールに従って性的欲求を発散できていた。

江戸～明治期日本

維新まで結婚という観念があったかどうかすらアヤシイ。

離婚率が最高なのが明治初期という事実。事実婚。

明治新政府は、「家制度」構築のため、庶民にまで武家道徳を適用。「姓」の捏造。

明治新政府は、一等国の体面を作るため、庶民にまで表面的に輸入された欧州の道徳や法律を適用。

明治新政府は、一等国の体面を作るため、欧州道徳から見た場合に野蛮なそれまでの性規範・性道徳を禁圧。

欧州やアメリカの宗教的、道徳的指導者が、知識人階級に影響を及ぼし、性的純潔の異常な称揚が明治後期に生じた。ロマンチック・ラヴの移植。

大正期～昭和初期日本

純潔の称揚が、文学を經由し、中上流階級の人々の下流階級に対する道徳的優越性の根拠として使われる。

女性解放や女子教育の進展にともなって、欧州やアメリカの女性の性観念と結合し、純潔が女性の男性に対する道徳的優位性の根拠として使われる。

大正期中上流階級の教育ある女性の純潔観念の絶対視は異常。純潔であるワタクシはスバラシイ。ロマンチック・ラヴの展開。

国民が戦争へ動員されていく中で、家に残された女子の純潔と銃後の守りが戦時下の国民道徳として強制されていく。

戦後～高度成長期日本

壊滅的な敗戦で、戦前まで維持されてきた日本伝統の道徳や価値観が崩壊。

占領権力であるアメリカの表面的な規範や道徳が民主主義とともに移植されていく。それを素直に受け入れた。

もともとアメリカ由来の大正期の女学生的純潔主義が勢力を獲得。ロマンチック・ラヴ・イデオロギーの定着。

高度成長期に提示された「正しい家庭」それ自体が、50年代アメリカの理想化された家庭像のコピー。

伝統的な日本の性規範性道徳は完全に失われ、表面的に形成された性規範性道徳が定着。実質的な「性そのもの」のあり方については放置状態。

現在

「性そのもの」の抑制 　　というか放置。制御してない。

正常な性的成長の発展段階に関する合意がない。

社会的に容認される性の扱いに関する合意がない。

マジメな子がどうしていいかわからずオロオロしている一方で、マジメでない子はやりたい放題。

マジメでない子を統制しようと、オジサンやオバサンが対策・対処するたびに、マジメな子がどんどん萎縮。

「性関連情報」の氾濫。金儲けになるからね。

恋愛資本主義の構築。ロマンチック・ラブを餌に人々を勤労へと駆り立てる。

中結論

現在の性規範は、その本来の目的を失って自己目的化している。その性規範をさらに強化することは、人間の本質的な幸福に対する「障害」と呼びうる水準に高めることになる。

性行為を抑制する規範 A が存在する場合

規範をそもそも守らない人々 規範 A は守られない。

規範を守るマジメな人々 規範 A は守られる。

もし、規範 A が不合理で無意味である場合、マジメな人々は繁殖において不利な状態に置かれることになる。社会にマジメな人々が多いほうがよい、と考えるなら大問題だ。

問題

現代においてえっちの抑制に合理的理由があるか？

1. えっちを抑制することによって生じる身体的問題

性の目覚めから、いったい何年間ガマンさせればいいんだ。
ガマンしているうちに、性的指向が歪んだりしないのか？

2. えっちを抑制することに対して費やされる労力と努力

年頃の子たちがえっちするのを必死に取り締まる意味ある？
性を抑制したことで、思春期の問題を悪化させてないか？

3. えっちを抑制することに伴って生じる社会的問題

他の領域に悪影響してないか？ たとえばエロ本禁圧を口
実とした検閲体制の整備とか。所詮エロ本、なにマジに(笑

結論

1. 現代において、ムリヤリえっちを抑制してもロクなことはいないよ。むしろ、現在の状況において、えっち抑制に積極的な意味はないよ。
2. かつて清教徒的アメリカ社会に存在していた男女交際の秩序(デーティング / ダンス / パーティ)と類似した、日本の伝統に根ざした仕組みをまじめに構築すべき。

「えっちなのはいいけないと思います！」ってのは、アニメの中だけにしてくれよ。